



代表取締役社長
山口 清一郎 氏
やまぐちせいいちろう

社長が語る 「ものづくりへの想い」

今、地球上にはゴミがあふれています。家庭や企業から排出される廃棄物をリサイクルし、また安全な処分をして地球環境、環境保全を育成してゆくのがこの仕事です。地域の環境活動に関わり実際に触れられる機会はなかなかありません。環境事業から世界を見ていきませんか？



全長 20 メートルの最新モデル骨材製造プラント。県内に 2 機しかない。

事業の一環である建設資材リサイクルの展開として建設骨材製造の品質が向上。



monozukuri
11

廃棄物処理業

有限会社
アサヒ産業

〒876-0822
大分県佐伯市西浜10897-66
TEL 0972-24-1153

廃棄物の増加により、地域のリサイクル・廃棄処理企業としてどこまでニ

地域から地球環境を目指す
ワンストップソリューションへ

瓦礫を投入するだけで、細かく一定の粒度に破碎されて新たな製品として再生。付加価値が付き、良質な建設資材として販売も可能になりました。

ズに对应していけるか？その課題を一つひとつクリアし対応して来たアサヒ産業は県南一の環境事業として成功してきました。今後もさらなる再資源化プラント、循環型のシステムを構築し、ワンストップソリューションとして社会へ、地球環境へ貢献していきます。



7300 坪の広大な敷地に事務所、廃棄物選別、破碎機、鉄スクラップシャー、スクラップ、雑品、アルミ、ステンレス、廃家電の各ヤードと古紙再生施設が点在している。

昭和 37 年、地元佐伯市で創業したアサヒ産業。今こそ環境がクローズアップされていますが当時は高度成長期の大量消費時代の始まりでした。その時代からリサイクル主体の事業として着実に実績を上げ、今では県南地域から送り込まれる産業、医療、漁船、一般家庭の様々な廃棄物の処理、リサイク

県南全域から様々なジャンルの
廃棄物を受け入れリサイクルへ

企業や家庭の中から出る
廃棄物の循環利用

廃棄物の増加に伴い、再資源化の対象もその技術も広がってきました。「廃棄物は大部分のものがリサイクルできるようにになりました」と語る山口社長。郊外に位置する広大な敷地内には廃棄物処理場の他に、コンクリート、アス

ルに取り組んでいます。

機械に廃材を投入するだけで
建設骨材の製造・販売が可能に

建造物の解体から排出されたコンクリートの廃棄物も増加する中、導入された機械により、解体工事で発生するファルト、木くず等の再資源化プラントから有機肥料製造プラントまで設置。企業や家庭内から発生するあらゆる廃棄物が有効にリサイクルされています。

monozukuri-11 asahisangyo

11 有限会社 アサヒ産業

環境への取り組みを通じて リサイクルで社会に貢献

リサイクル事業から廃棄物事業まで展開するアサヒ産業。導入機械で廃棄物を再資源化し、製品にして販売するワンストップ環境事業を実現。



導入のポイント！

建造物廃棄物で
建設骨材を製造

従来は重機で破碎していたが、粒度が安定しないので使える用途が限られていた。導入した機械で破碎すると一定の粒度なので、品質の高い製品が完成。建設会社や土地改良などコンクリートの骨材として用途も広がってきた。